

2022.10.2 年間第 27 主日

一粒の信仰

ルカ 17 章 5-10 節

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

説教

イエスのことば、行いを記録したものが福音書で、わたしたちは主にイエスのことばを学ぶこと「ことばの典礼」と聖餐をおこなう「感謝の典礼」の2つをとおして礼拝をおこなっています。

きょうはルカ福音書 17 章の冒頭箇所 of イエスと弟子の問答が聖書日課で割り当てられています。朗読した福音は、1つ目は信仰はからし種一粒ほどあればいい、2つ目は主人に命令されたら果たしなさい、となっています。2つともたとえ話になっていますが、わたしにはこのたとえ話がなにをたどっていて、いまの世界、社会に生きているわたしたちにどんな教えがあるのかさっぱりわかりません。こんな日は「ことばの典礼」「感謝の典礼」の二本立てにした先人の知恵に感謝して、聖餐に集中しましょう。
